CELULAS



ピアサ

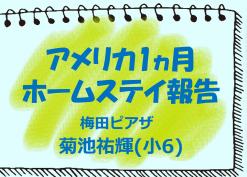
NPO法人多言語広場セルラス 世界に通じる人材の育成をめざして

2017 Vol. 8





こんにちは! 念願のアメリカへ、 1ヵ月のホームステイ に行ってきました!





アメリカに行きたかった理由

ぼくは昔からアメリカが大好きで、ずっと行きたいと思っていたのですが、それは、特にアメリカの農業をしてみたかった からです。アメリカの留学の話を聞いて、馬に乗ったり、二ワトリやヤギの世話をしたり、ジャガイモやとうもろこしの収穫を してみたいと思ったからです。また、アメリカが作ったアニメや漫画も素晴らしくて、日本とは一味違った感じが 味わえます。アメリカ人の性格も好きで、軽いジョークを言ったり、表現の仕方やリアクションまでが

とても面白いです。そして、このホームステイで、自分も家族の一員になれることを夢見て参加しました。

ホームステイ先での生活

ホストのダドゥとマムは仕事で 平日は家には子供しかいないので、 いつも中1のルークや、高校生くらいの お姉ちゃんが居る所で、兄弟とぼくも 一緒に預かってもらっていました。 そこではボードゲームをしたり、庭で 犬と遊んだり、地下で映画を見たり、 庭に作った秘密基地を見せてもらったり、 まとにボールをあてると水に落ちる プールで遊んだりしました。ホストの 家では、使ってなかったトランポリンを、 子供だけで、できる限り組み立てて 使えるようにして、それを使って 飛びまくったりしました。

ホストファミリー紹介 ~ ウェブスター家族 ~

お父さん:ブレントさん お母さん: ハーザーさん ホストフレンド:フィレックスくん・10歳 妹:アメリアちゃん・8歳 弟:オスカーくん・6歳 おばさん:ジュディーさん



弟のオスカーは折り紙が好きで、 たくさん教えてあげたり、工作を しました。ホストフレンドとは毎日 遊びました。

また、恐竜博物館に行って、 ホストフレンドと古代の歴史を 楽しんだり、農業体験センターで 家畜にエサをやったり、川に行って 遊んだり、ホストのおばあちゃんの 家でサンドイッチを作り、車で 山までドライブに行ったり、野生 動物を見たり、色々なところにも 連れて行ってくれました。

びっくりしたこと

ぼくがお世話になった家は、実はとても汚くて、ぼくの寝室 に入ったとたん、ネコのおしっこのにおいがひどかったです。 妹の部屋はキャットフードのにおいがすごかったし、部屋の 奥の方には服の山がいくつもできてたり、そこら辺にゴミが 散らばっていて床もすごく汚くて、ソファーもじゅうたんも 猫の毛だらけで、最初はつらくて泣きそうになりました。 でも、ぼくは住めば都だと思って、必死でガマンしました。 そして3日も経てば、なれました。

5日目に日本のジブリ映画を見た時、ホームシックに なりました。でもそんな時に、ホストファミリーとアメリカの アニメを見て、ホームシックを解消しました。

また、ホームステイ先には地下にも人が住んでいて、 ある日、地下を借りている人が遊びに来て、その汚さを見て 「そうじをした方が良い」と言いました。

実はぼくは、そうじが得意です。そこでまず、ぼくはホウキ ではきまくって、次にそうじ機をつけようとしたら、さあ大変! ホコリがバーっと出てきました。あわててぼくは止めて フィルターそうじに取りかかりました。無事使えるように なって、家もだいぶきれいになりました。地下に住んでいた 人も「Yuki! You are great!」と言ってくれて、 それがとてもうれしかったです!

家族の一員として

ホストファミリーの家はすごく汚くて最初はとてもつらかったけれど、 家族の一員として、同じように生活をしたみたいと思いました。

床が汚くて1日目はスニーカーをはいていたけれど、2日目は クロックスになり、3日目はサンダルになり、そして4日目、ぼくも 家族と同じように素足になってみました。それから家族と同じ時間に 起きて、家族と同じ時間に寝ました。シャワーも毎日入らない家族 でしたが、ぼくも同じようして過ごしました。洗濯もお母さんが ほとんどしないので、それに合わせて、最後に一度だけ洗濯して もらいました。できるだけ家族と同じようにアメリカの生活を してみたかったからです。アメリカに行って、家族の一員として ユウキ・ウェブスターになりたかったからです!!





床にたくさん落ちてる ゴミも、きれいに 片づけたよ!

コミュニケーション

英語はだいだい、何か聞かれたら、Yes、No、で過ごせていましたが、みんなの言うことがなんとなくわかりましたし、あまり困ることはなかったです。でもぼくは一度、ホストファミリーとレストランに行った時、ぼうしとカバンを忘れてしまいました。どうしても英語で伝えられなかったので、ぼくはジェスチャーやメモに絵を書いて、必死で伝えようとしました。ダドゥは分かってくれて、車で取りに行ってくれました。なんとか通じて、とてもうれしかったです。

ダドゥとマムが働いている職場に、日本語が話せる20代のタイラーという男の 人がいて、ぼくに人生のアドバイスをたくさんしてくれました。

「自分に自信をもって!」と言ってくれた時には、涙が止まりませんでした。

そして、教会で、また日本語が話せるアリシアさんと出会いました。とても親切で優しい人でした。最後の日に、お別れに来て、ぼくにメッセージカードをプレゼントしてくれました。日本語で『わたしは YUKIとあうことができてうれしいです。ありがとうございました。こころから。』と書いてあり、とてもうれしかったです。

ことばが通じない相手との会話や、自分のわからないことばの中で生活したことも、とても勉強になりました。でもとにかく、別れの悲しさも知れて良かったです。



恐竜博物館へ行ったよ!

ある日の朝ごはん。 シナモンロール、 ベーコン、 スクランブルエッグ すごい量だったけど、 毎日残さず食べたよ!



アメリカのホームステイを終えて、見つけたこと

セルラスで多言語活動をしてきたから、人種も国境も性別も年れいも関係なく、 違いを受け止めて、人と向き合い、そしてコミュニケーション力が身についたと 思います。アメリカに行って、アメリカの家族の一員になり、同じように生活をして、 すばらしい国際交流が果たせたと、ぼくは思います!

ぼくがアメリカから帰ってきてから描いた、学校の課題の絵は、世界平和を表す 作品でした。国境を超えて、民族や性別や年れいも関係なく、地球すべての人たちが 手を取り合って仲良くなればいいなと思い描きました。

そして、ぼくが今できることは、日本に来た外国の方とも分けへだてなく仲良くすることです。ことばもジェスチャーも使って全力で伝えていきたいです。 またアメリカにも行きたいし、アメリカへ行って日本の良い文化も伝えたいし、 アメリカの良いところも持ち帰って、日本のみんなに伝えていきたいとも思います!



Der Auffars Kikuchi,

ptel it Yuki & \$5 = 2

to 72 to 50 LL 24.

\$1577 = 2 LB Lt.

2:375,

Alleha Larsen

allietensie@msn.com

please send me an e-mail

and E will Send you

pictures of Yuki / U)

アリシアさん

目標を持って

ぼくは、5年生で韓国に行きました。ホストとも 仲良くなって、とても楽しかったです。想像して いたより5億倍楽しかったと報告会で話をしました。

でも、アメリカの生活は、想像していたのとは、 全然違っていたけど、家族の一員になることを 目標にしたら、いろんなびっくりはあったけど、 韓国より、もっともっと楽しくなれました。

なにより、急なホスト変更だったのに、ぼくを 受け入れてくれたウェブスターファミリーには とても感謝しています。

韓国とアメリカを比べると、韓国は家でクツを 脱いでいますが、アメリカは基本、はいています。 韓国は栄養も考えるけど、アメリカはあまり気に しない。こう考えると、アメリカより韓国の方が 日本の生活と似ていますね。だから、その国から はなれていればはなれているほど、文化や生活も 違うんだなと思いました。







将来このホームステイプログラムに参加する人たちへ

『待ってたって何も始まらないから、自分から挑戦する』ことが大切だと思います!



「韓国の友だち、アンニョンハセヨ!」 青少年韓国ホームステイ交流2017



今年は、関東、関西の小4~小6の小学生11名でお隣の国、韓国でホームステイの 体験をしてきました。みんなピカピカの笑顔で帰国!今年はどんな体験が出来たのかな?



韓国語を一言でも話すことで、 家族みんながほめてくれて、 緊張していた私は元気をもらい ました! (小谷奈鶴実 小5)



最初、ホストがほんやく機を 出したので、ちょっと言おうか 迷ったけど、勇気を出して使わ ないでと言いました。すると、 日本語が話せないホストは、 たくさんの英語、韓国語、 ジェスチャーで話してくれて、 とっても楽しくおしゃべりが できました。(宮坂愛和 小4)





プールに行ったり、 たくさん初めての体験を させてもらったホスト家族に 感謝の気持ちでいっぱいです。 <mark>次は日本に来て欲しいです。</mark> (吉田菊莉 小5)



焼肉屋さんで、私が長年食べたかった 牛肉のカルビ焼きを食べました。すごく マシッタ(おいしい)でした! (関 陽夏 小4)



日本と韓国の 違いをたくさん知る ことが出来て、 面白かったです。 (公田陽菜乃 小4)



私に「お金は使わなくていいよ」と言って くれたアッパ(お父さん)「だって私たちは 家族じゃないか~♪」という言葉に、家族の ·員になれた気がしました。(公田穂乃香 小6)





ほめてもらって うれしかった (井上心弥 小6)

対面式での

みんなで考えた

「前前前世」の

ダンスも大成功!

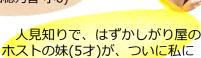
ールプレイと



家族みんなやさしくて、ホーム ステイが終わったら、もう会え ないと思うとさびしくて、涙が 出ちゃった。(梅原秀太 小4)

初日に、ホストと 6日間の予定の話や、 お互いが好きな アイドルの話を ジェスチャーも 交えていっぱい話を して、仲良く

なりました。 (荻野優美 小6)



手をふって笑って くれた時はとってもうれし <mark>かったです!(夏目紗良 小4)</mark>





成果を多いし 発揮して、 みんな本当に 頑張りました







(のでは、と思います。 想いを伝えあってきたか 感じます。きっと、向こ 不思議と、日本語の語彙 日本に帰ってきた息子 とも言 とも言いますが… 益々生意気になつ

「本語の語を ホスト家 一アツッ の力が増れる族と必ず プした し死様たにに

て誇らしく思いました。、全身全霊で家族と向き合い、全身全霊で家族と向き合いていたビニール袋1枚まで大ていたビニール袋1枚まで大く(お母さん)が沢山買って下4 しれませんでした。息もホスト家族に愛してもらっ日家族と遊び、笑い、 ん が沢山買って下さった、八百扇んでした。息子が好きだと言った豕族を想い、帰国後の「韓国ロス愛してもらったのと同じくらい、遊び、笑い、会話をして楽しく過 まで大切 息子を愛お. にして 八百屋の

準備だったように思います。 準備だったように思います。 はいを抱き、事前研修を経て見みよりも、このセルラスでもなと準備をしてきましたが、 おりも、このセルラスでもなりも、このセルラスでしたが、 はが生きてきたら年間の全てが がりまり できたこと、そしたが、 はがく はい を がった はい ます に ない ます に 思います。



全身全霊で家族に向き合い、 成長した息子 梅原秀太・母





セルラス活動の本質

諏訪玲奈 (溝の口水曜ピアザ)

家族構成:夫・長女(小3)・次女(年長)・長男(2才)



【セルラスは習い事?】

大好きな日曜日なのに休めないの? またセルラス? 気の 乗らない小学3年の長女を連れて、初めてホリデイ・スーパーピア ザに参加した7月9日。沢山の知らない人たち、そこに混じる外国 から来た顔・顔・顔、そして<mark>飛び交</mark>ういろいろな<mark>言葉。娘に</mark>してみれ、娘:「そっか。なんかわかったよ。理事長ってあったまいい ば、カルチャーショックの<mark>連続だ</mark>ったのです<mark>。それが私にわ</mark>かった のは帰宅してからでした。

それまでいつもと変わらない様子だった娘が、家につくと急に 「プリヴェ!」と、いつもピアザメンバーの男の子がやっている自 己紹介を丸ごと、ひと息に言ってみせました。娘が英語以外の外国 語を自分から口にしたのは初めてのことでした。驚く私にさらに一 言、「お母さん、セルラスって習い事じゃないんだね」と言い出し たのです。

【入会したものの…】

私が子ども3人を連れてセルラスの活動に参加し始めたのは今年 3月のことでした。しかし、なかなか活動の本質を理解するのは 難しく、懇談会などでい<mark>ろいろ</mark>質問させていただき、なんとなく 理解できたところです。<mark>まだ分か</mark>らない部分がありながらも、 手探りでやっているうちに私にも子供たちにも見えてくるものが <mark>何かあ</mark>るだろう…と気楽に考えていました。

ですから、子どもたちに「セルラスってなあに? なんで 行かなくちゃいけないの? いやだよ」と言われても、子どもた<mark>ちを</mark> 納得させるよ<mark>うな</mark>説明をすることはできませんでした。

「まあ、いい<mark>じゃない」「今週は行って</mark>みようよ」などと 毎週のように曖昧な返事を繰り返している中での、スーパー ピアザへの参加でした。

『『『と言楽「話話シしそ楽「姿もででのえしスををヤかのし口でつきき答たかべ聞おドも変か!し では、 では、 では、 では、 では、 でい込んでいる感じが、 でいる感じが、 つら いえル はてな? みい スポブ なかレ つイ びてス たが 番 [□]で そは 前の彼 ごど番 い語

【帰宅後の親子の会話】

娘:「今日は、しょ<mark>うちゃんのお話はすごく面白かったよ。</mark> おじさんのお話はつまんなかったよ。」(すみません!)

<mark>母</mark>:「でもさ、その理事長のおじさんが、このセルラスって いうものを創った人なんだよ。どんな言葉も、習うん じゃなく、もっと自然に喋れるものなんじゃないかと 考えて。|

娘: [?]

母:「だってさ、今、梓はやっくんの真似をして、ロシア語を 自然にしゃべれたでしょ。」

娘:「そういえばそうだね。毎週聞いてたら覚えちゃったよ。」

母:「でしょ。細かい意味は分かんなくても、言いたいことは わかるし言えるじゃない。純(息子)だって、泣いてる <mark>だけの赤ちゃんだったのが、なぜか日本語を覚えて</mark> しゃべってるじゃない。

それを、み<mark>ん</mark>なでやろうとしてるん<mark>だ</mark>よ。 梓もさ、がんばれが『ばんがれ』<mark>でも</mark>、チョコが 『コチョ』でも、『これしかできたよ』でも、純の 言いたい事はちゃーんとわか<mark>るでし</mark>ょ。」

娘:「うん。」

母:「だから、言葉ってたぶん、細かいことは間違えたって 別にいいんだよ。伝えたい気持ちがあれば通じあえる ってい<mark>う</mark>か。」

ね~! ああ、だから英語だけじゃなくて、ナントカ語 とかナントカ語とか、いろんな人のいろんな言葉を やるんだね!」

母: 「!!!」

【驚き、そして喜び】

思いもよらない娘の言葉でした。親よりもずっと深い ところで、体感的に活動の本質をガッチリつかんだ様子の娘に、 心の底から驚かされました。

また、学校では積極的に手をあげたり発表したりしない娘が、 「ピアザでは必ず順番が回ってきて、自分も必ずやらなければ ならない」ことを、実は喜<mark>び、楽</mark>しんでいることも、この<mark>日、</mark> 初めて知りました。

【娘の変化に刺激をうけて】

翌週・翌々週と息子が体調不良で、私と次女はピアザを お休み<mark>した</mark>のですが、上の娘は「1人でも行きたい」と 言って、足取りも軽く出かけていきました。それまで、親と 一緒になら・・・と、やっと行っていたことを考えれば、大きな 変化です。だからといって、急にシャドウイングに熱心に なるわけでも、積極的に外国語を口にするわけでもない娘 ですが、この日の経験は、彼女の中の、「知らないもの・ ひと・言葉」に対する垣根を下げてくれたのではと思います。

娘の変化に「私も変わらなければ」という思いが自然と 沸き、この夏は中国人留学生の谷佳芸さんに一泊ホームステ イに来<mark>ていただき、家族みんなで</mark>この出会いを楽しむこ<mark>とが</mark> できました。

習い事でないなら、いったい何なのか。おそらく、 そ<mark>れは</mark>生き方そのものなのではないか、という<mark>気がし</mark>ている 今日この頃です。



6



お父さんの目線

協力から積極的参加へ! 親子で一緒に学びませんか!

権頭康則 (溝の口水曜ピアザ) 株式会社 ドコモCS 勤務 営業

家族構成:妻・長女(小3)・長男(年長) 今年の2月から家族4人で参加しています。

【入会のきっかけ】

私は本が好きでビジネス書をよく読むのですが、『未来はITの 発達により、国籍・地域・知識・年齢様々な壁がなくなり、 より創造的で協力をベースとする活動や仕事が増えてくる。』と、 どの書籍にも書いてあります。その中で"英語がしゃべれない" というのは、大きなハンデになります。そのような理由で、 「英語できなきゃいけないよね」という漠然とした想いはありました。

そんな時に出会ったのがセルラスです。講演会に行った妻から話を聞いた時は「なんで多言語なの?」という疑問を持ちましたが、とにかく自分の目でも確かめようと、私も講演会に行きました。そして私の考えは一変してしまいました。

「すごい…。」大人と子供が入り混じっての多言語ロールプレイ、子供による、セルラスで学んだことに対するプレゼンテーション(以下、プレゼン)そして、鈴木理事長による活動理念の話。

頭の中で考えていた、自分も言語を学びたい、子供たちにも 学ばせたい、ただの言語習得ではなく根本的なコミュニケーション を学ばせたい、等々…。『あったらいいなぁ』と思う活動が目の前に 現れた感覚でした。そこからは入会まで決断は早かったです(笑)

【家族でドキドキ! 外国人との交流】

入会後の数か月間で、ワンデイトリッププログラム(※1) ホームステイ受け入れ、また夏にはサマーキャンプのボランティアスタッフとしての参加など、様々な体験をしました。特に印象深い体験は、家族で初めて外国人と交流したことです。韓国のヘリちゃん、メキシコのマリちゃんを受け入れました。韓国やメキシコの事を家族で調べたり、「挨拶はなんていうのかな?」と言葉を調べたりと、準備も楽しいものでした。また、日本についての質問を受けたのですが、分からないこともあり…自国のことを知る大切さを学びました。

人と人との交流を通すから、「もっと友達の国を知りたい」「友達の国の言葉でしゃべってみたい」と思うようになります。自分の目で見たもの、体験したものが「自分のカ=動機」になっていくのを感じました。そして今は、英語よりも韓国語やスペイン語を学びたいという思いが強くなっています。ピアザでの活動にもそういった"動機"があることで、恥ずかしかったロールプレイなどにも積極的に取り組めるようになりました。(慣れもありますね…)

(※1)来日間もない留学生と、一日ペアになって過ごし、 親交を深めるセルラスのプログラム

【留学生リーダーたちへの尊敬】

ボランティアスタッフとして参加した、セルラス青少年サマーキャンプですが、ここでも多くの留学生と出会い、3泊4日を一緒に過ごしたことで、友情を深める事が出来ました。

留学生リーダーを含めた夜の運営ミーティングで、グループの 現状や子供たちの様子を、一生懸命話す留学生リーダーたちを 見て、ふと感じたのは、自分が海外に出て同じ環境で、彼らと 同じチャレンジができるだろうか?また、こんなに伝えようと 必死に日本語(彼らには外国語)でしゃべれるだろうか? という事でした。

そう思うと、彼らに対して尊敬の想いで一杯になりました。 私自身がチャレンジするのもそうですが、子供たちにもそんな チャレンジを是非してほしい、出来る環境が必要なのだと感じ、 ますますセルラスの活動への想いが高まった瞬間でした。

【本当のリーダーシップ育成】

このミーティングで印象に残っているのは、「中高生の〇〇が グループ内でよい方向に働きかけてくれるので本当に助かって いる」というJr.リーダーの発言でした。

私はショップ経営をしている会社に勤めているのですが、 店長がいてスタッフがいて、その中間にいる副店長やリーダーの 動きが成功のカギを握る事が多いです。

「いかに店長の発信を汲んでスタッフに行動の働きかけを促せるか=中高生がJr.リーダーたちのフォローをいかにできるか。 小学生たちへの働きかけができるか。|

セルラス中高生はトップでなくても、立派にリーダーシップを とっていました。社会に出れば、トップでなくても リーダーシップが必要な場面だらけです。

セルラスの活動は本当に社会に必要な人材育成に通じるものがあると感じた瞬間でした。

【協力ではなく、お父さんの積極参加を!】

子供たちの為にということで、何らかの方法で言語習得を 始めるご家庭は多いと思います。私はぜひ、家族一緒に学ぶ事を おすすめします。その為にはお父さんの「協力」ではなく 「積極的参加」が不可欠です。

子供だけが学ぶという時代は終わりました。大人も子供も同じ目線で学ぶ事が大切な時代です。

大人が必死になる姿は、きっと子供達にも良い影響を与えると 信じています。ぜひ、お父さんも「協力」から「積極参加」して 自分の目で見て学んでいきましょう!



ちょっと

ひといき♪



イギリスクイズ

第1問 Boiled egg & soldiers というイギリス伝統のゆで卵の食べ方があります。それはいったい、どんな食べ方でしょう。

①ゆで卵とカリカリに焼いたベーコンを混ぜて食べる。

②カリカリに焼いた、細切りのトーストに、ゆで卵をつけて食べる。

③ゆで卵を殻ごと食べる。

第2問 ゆで卵を食べる時使う食器は?

①ナイフとフォーク

②ナイフとスプーン

③手で殻をむいて食べる



答えはP.14 を見てね!



今年の夏、私は9年前に1年間 ホームステイをしたイギリスへ、 7年ぶり、2度目の里帰りを実現して きました!! そこで今回は、イギリス の朝ごはんにまつわるクイズを出題 します! みんな、わかるかな~?

> 石川茂子 厚木・海老名コーディネーター



CELULAS 20

世界に通じる 力を育てる!

今年のテーマは…

『違いは大切な宝物』

『多言語で話そう! 多言語ひろばを みんなで作ろう」

2017.8.20~8.23 長野市青少年錬成センター

セルラスの青少年サマーキャンプは小3~大学生メンバーを対象にした、 3泊4日のキャンプです。関東と関西から青少年メンバーが集まり、 中高生のJr.リーダー(※2)や、各大学・大学院から選ばれた外国からの 留学生リーダーを交えた縦長の年齢構成のグループになって活動します。

キャンプは準備が8割です!!

★一人ひとりが自分で目標を立てます。 ★全体の準備会とピアザで、目標を宣言! 多言語ロールプレイやプレゼンに挑戦 しながら、仲間と楽しくしっかりと 準備をしていきます!

帰ったらピアザで体験を報告!話すことで 体験が広がり、発見もいっぱいです。



(※3) **ロールプレイ** セルラスのストーリーを、 役柄に分かれて仲間と一緒に

イメージを膨らませて 多言語で表現すること。

(※4) ワンマンロールプレイ

セルラスのストーリーを、 イメージを持って多言語や ジェスチャーを駆使して、 -人で表現すること。



ヴァレリ

カルロス

バイちゃん



ソウちゃん





関東・関西よりバスで出発

オープニングセレモニー

グループ活動(1)

- ・グループのみんなと仲良くなろう
- ・グループの名前、エールを決めよう

夕食

グループ活動②

・グループの歌をきめたり、ゲ-をしたり、ロールプレイ(※3) をしよう

フリータイム

お風呂 就寝

起床 そうじタイム 朝のつどい

朝食

グループ活動3

·ロールプレイ、ワンマンロールプレイ(※4)

多言語プレゼンにチャレンジしよう

子供たちみんなに感動しました! 留学生リーダー 林姿余(台湾)

Jr.リーダーたちがすごくしっかりしていて、頑張って グループ全体をまとめている姿を見て、感心しました。他の 中学生たちも、使命や責任感を持っていて、離れてしまう子供たちに 声をかけたり、きっといろんなことを感じて成長したと思います。

子供たちも、最初の不安や恥ずかしさが少しずつ減って、少しずつ 団結していって、その変化が、自分の目、自分の体で感じられて 感動しました。

真剣に台湾の話を聞いてくれたり、

「中国語を教えてほしい!」と言ってくれたり、 本当に嬉しかったです!!4日間楽しかった!!!!



※2 Jr.リーダー

セルラス全中高生から選ばれたリーダーで、任期は1年。 サマーキャンプでは留学生リーダーを補佐し、グループをまとめ、 キャンププログラムの進行や運営にも力を発揮します。



サマーキャンプでの基本姿勢

「相手の目を見て挨拶をしよう!」 「心からありがとうと言おう!」 「自分のことは自分でやろう!」



加油!加油!

빨리, 빨리!

グループ対抗 ゲーム大会で生まれた絆

山田杷奈(小5) 烏山木曜ピアザ

楽しかったことがたくさんあった 中で、一番楽しかったのが、 グループ対抗ゲーム大会です。 チームで協力して勝つ!そういう ところから、絆が一つひとつ生ま れたんじゃないかなと思います。



洗濯タイム・フリータイム

グループ活動4

- ・留学生リーダーの話を聞こう
- ・ストーリークイズを考えよう







フリータイム 夕食



グループ活動の

- ・留学生リーダーの話を聞こう
- ・ディスカッションしよう

フリータイム

お風呂

就寝



起床

ZB**B**

そうじタイム

朝のつどい

朝食





世界のことばと遊びの広場

・留学生の国のこと、夢、日本に来た 目的などいっぱい話してもらおう!







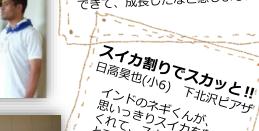
目標を達成! 成長を感じた! 吉田茉穂(小4) 荻窪ピアザ

ディスカッションが一番! 上野朔太郎(中1)西宮北口ピアザ

グループ活動のディスカッション を通じて、僕も皆も自分を正直に

出せて、すごく仲良くなれました。

私の目標は「多言語で友達を 去年より作る」でした。一番に 多言語自己紹介をして、グループ の人としっかり友だちになりまし た。3年生の面倒もみることが できて、成長したなと感じました。



思いつきりスイカを割って くれて、スカっとしたし、 こてもうれしかったです。 みんな違う人だけど、 一緒に笑い合えたとき 「違いは大切な宝物」が わかった気がしました。

ストーリークイズ大会 多言語プレゼン・ワンマンロールプレイ大会 ANTES!

昼食

シエスタタイム



みぎ、みぎ!

すいか割り by 留学生リーダー

グループ活動(6)

・キャンプファイヤーのグループ発表準備

キャンプファイヤー

お風呂

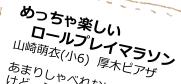
就寝

48

起床 そうじタイム Mill 朝食

30分×3セット、 グループを替えて

多言語ロールプレイをしたよ



あまりしゃべれないから不安だった けど、ジエスチャーを使ってわかる ことばを少し言うだけで、めっちゃ楽しかったです。みんなで想像力をあるよりないないない。 来しかったしょ。 ふくらませながらできたと思います。

ロールプレイマラソン

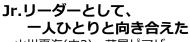
クロージングセレモニ ・最優秀グループ賞表彰

グループお別れ会

関西・関東へ出発







山川夏海(中3) 芦屋ピアザ

人のいいところ、頑張っているとこ ろを発見し、相手に伝えられるよう になったことが一番成長できたと感 じています。子供たちのいいところ はたくさんほめて、ダメだと思うと ころは真剣に注意でき、一人ひとり としっかり向き合えたと思います。



22222222222 アメリカ公立高校 交換留学プログラム帰国報告 横浜ピアザ 通用選革(京2)

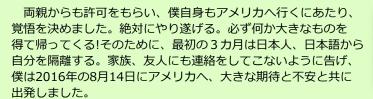


【1. 留学への憧れ】

僕は、小学校5年生の頃からアメリカ留学に漠然と夢を持ち始めました。 中学2年生でアメリカのシアトルへ2週間のホームステイに行き、鮮明な記憶はあまり 残っていませんが、ただただ楽しくて、必ずまたアメリカに、英語を勉強してから 戻ってこようと、強く心に決意したのを、今でも覚えています。 今思えば、あの2週間が自分の世界観、人生を変えたと思います。

【2. 覚悟の決断】

高校生になった僕は、学校生活、クラブ活動、友人関係、 すべてが充実していました。特に苦労することもなく過ごしている 自分。このままで良いのか…?この緩い現実から一歩踏み出て、 自分を変えたいと思う気持ちが強くなり、留学を決意しました。







【3. どん底の初日…脱出のコツは!?】 登校初日。かつて留学した先輩達から聞いていた通りの事態に、見事に遭遇して

しまいました。学校が広い! 教室が分からない! 5分休憩で移動できない! ロッカーのカギの開け方が分からない! 僕は重い荷物を全部持って移動をし、

選択したクラスにようやく遅刻して到着しました。







でも、ここからが本当の試練でした。遅刻をしてきた見知らぬ日本人の僕に、 誰も興味を示しませんでした。「Hi~!」と話しかけても「あっそ…」といった 反応。日本と全く違う価値観、興味が無ければ無理に友達になる必要もないという アメリカの個人主義を、ひしひしと感じたのです。不安、悲しみ、孤独… もう、これほど学校へ行きたくないと思った日はありませんでした。

でも、こんな思いは今日だけにしたくて、次の日から気持ちを切り替え、できる事はすべて やってみました。興味のないゲームの話題でも「知ってる知ってる! それ、面白いよね~!」と、 話題が何であれ、どんどん話に乗っていく。好きでない食べ物でも、「大好き!」と言って 食べる、etc…。「No」という余裕は自分にはないと思って、どんどん相手に近づく努力を していったら、少しずつ友達が出来ていき、留学が終わるころには、かけがえのない親友、 仲間に囲まれた生活を送ることが出来ていました。





【4.「0」と「1」

僕はスペイン語の授業を取りました。

そこで僕がスペイン語で自己紹介をしたら、みんなが驚き、 「すごい!どうしてスペイン語を知ってるの? 日本人はみんな スペイン語が出来るの?」と聞かれました。また、その学校には キルギスタンからの留学生がいて、ロシア語を話す国だと知り、 「オーチン プリヤートナ!」と言ったら、彼はみるみる笑顔に なり、「何で知ってるの!日本人はみんなロシア語を話せるの??」 と聞かれました。

スペイン語にしても、ロシア語にしても、僕にしたら、 ほんの一言、挨拶程度しか話していません。もちろん一生懸命 覚えた会話でもなく、セルラスでみんなが話していて、それで なんとなく自分も知り、言ったことがある、という言葉でした。 でも、その一言が言えたことで、相手が笑顔になり、お互いの 関係がぐっと近くなるのを感じました。

全く知らない「0(ゼロ)」の状態と、少しでも知っている 「1」との違いは大きいと、セルラスで話を聞いたことが ありましたが、本当にその通りだと思う体験でした。

【5. 人・物・国】

僕はこの留学を通して、アメリカの沢山の良い所、良くないと 思う所も見つけ、そしてこの国が大好きになりました。彼らは 本当に陽気で、優しくて、面白くて、自分の性格的にも、 住むならアメリカが一番向いているかも、とも思いました。 また、想像通り食べ物、飲み物はもちろん、道路、家、建物など、 すべてがBIGでした!

しかし、アメリカという国は、様々な人種や宗教の人たちが 住んでいる国です。そのため、やはり差別が存在していました。 日本も年々、外国人が増え、グローバル社会と呼ばれている今、 私たちは様々な人々と共に歩まなくてはいけません。

そもそも、人種や宗教による差別は、なぜ起きるのでしょう? 僕は、まず相手を理解し、心を開くことが大切だと思います。 言葉や文化、習慣が違えば間違いなく考え方は異なってきます。 最初から相手を全否定するのではなく、どんな人に対しても 興味を持ち、一歩ずつ本当の世界平和に近づけていけたらいいなと、 ずっと僕は考えています。

アメリカ留学は、真剣に人種差別について、考えるきっかけにも なりました。



【6. 英語力の成長】

英語ができないのは覚悟の上でしたが、目安としていた3カ月が経ってもなかなか思うように英語が話せず、毎晩、本当にこの先、できるようになるのかという不安で一杯でした。最初の頃開かれた、留学生のパーティーで、自分も含めた3人の日本人以外の留学生が、皆流暢に英語を話している姿を目の当たりにした時は、正直、日本で英語教育を受けたことに激しい嫌悪感を抱いてしまいました。しかし、そんなことに文句を言っても何も変わりません。ひたすらどうすれば英語ができるようになるかを考えて過ごしていました。英語力を自分自身で納得し始めたのは、留学してから半年が経った頃です。

どうやって英語ができるようになったのか?自分の場合は、ひたすら想像して、 聴いて、喋りました。まずは相手と向き合い、

場面を理解して、聴く。そして分からない言葉は 調べることもあるけど、基本は真似して言ってみて、 だんだんと使えるフレーズが増えていく! 本当にCELULASの多言語習得のプロセスは 最短ルートなんだなぁと改めて思いました。



帰国前に、留学機関のコーディネーターに言われたことが今でも忘れられません。 「奨平は、初めは今まで見てきた留学生の中で一番と言っていいくらい、 英語が話せなかったけど、今は、私が見てきた留学生の中で一番成長したよ」と。 英語だけを学びに行ったわけではありませんが、周りの英語ができる留学生と 英語力を比べられるのが、ずっとコンプレックスだった僕にとって、あの言葉は、 たとえお世辞だったとしても、涙が出てきてしまうくらい嬉しかったです。



【7. セルラスでの経験】

アメリカでは、何度もプレゼンやディベートをする機会がありました。もしセルラスに出会っていなかったら、大変な思いをしていたでしょう。 人前で話すことを怖がらず、たとえ笑われたり 失敗しても、めげずに挑戦し続けること、 老若男女、人種、宗教問わず、全ての人に対し、 一人の人として向き合えたこと、これらすべてを 僕はセルラスから学びました。

また、Jr.リーダーの 経験もしていたから、 どんな小さな事に 対しても、自分で責任を 持ってできたと思います。



【8. かけがえのない友人たち・家族】



僕はアメリカで、人との繋がりも学ぶことができました。これまでもわかっていたつもりでしたが、長期間にわたって日本を離れた僕は、今、改めて、いつも周りの人に支えられていたと感じます。特に野球の友達と2番目のホストファミリーには、感謝の気持ちで一杯です。彼らは僕に、自分の存在価値と沢山の愛情をくれました。朝わざわざ家に来て、学校まで送ってくれたSpencer、辛い時、毎晩電話で悩み事を聞いてくれたZack、シーズンが終わって学校に来なくてもいいのに僕のために家まで

送ってくれたChase、くだらない話でいつも笑わせてくれたり、いろんなところに連れて行ってくれたOttis, Travis, Christian, and Tyler. その他にも、すべての人のおかげで楽しく過ごせた1年間でした。



所属した野球チームの最後の大会と、留学機関のFlorida tripが重なってしまうことがありました。周りからは、野球だけをしに来たんじゃないのだから、旅行に行って来たら?とも言われたのでコーチに相談したら、即答で力強く「We need you, Shohei!」と言われたのです。僕は迷ってしまった自分を情けなく思いました。意思はすぐに固まり、みんなと最後まで野球をすることを選びました。僕に対して沢山のことをしてくれた彼らに、今こそ恩返しする時だと思ったのです。幸い、フロリダには2日遅れで行くこともできました。あの時、試合ではなくフロリダ旅行を選んでいたら、間違いなく後悔していたと思います。皆さんにも、選択を迫られたとき時は、今しかできないことを選んでほしいと思います。



ホストファミリーのMaryとClayは、3月から最後まで快く僕を受け入れてくれました。突然のホストチェンジにも関わらず、何も理由を聞かずに温かく見守ってくれたことに、本当に感謝しています。彼らが僕の為にしてくれたことを一生忘れません。そして近いうちに、必ず恩返しをしたいと思います。帰国した現在も、何人かの野球の友達とは、毎日連絡を取っていて、ホストファミリーとも、たまに連絡を取っています。

【9. 最後に…】

有難いことに、アメリカ留学前に、沢山の方から奨平(しょうちゃん)ならできるよ! と言われました。僕は昔から期待されるのが好きで、期待をプレッシャーに感じたことなど一回もありませんでした。しかし、留学して半年間は、自分の成長に悩み、不安に過ごし、初めて、周りからの期待が怖いと感じました。もし何も得ずに日本に帰ったらなんて思われるのかと、当時の僕は、自分をすごく追い詰めていたのだと思います。もし、このメッセージを読んでいる人で、同じように悩んだり苦しんでいる人がいたら、こうしてください。毎朝、誰かと会う前に、自分に対してモチベーションがあがる言葉を声に出して言うのです。僕の場合は、

「I can do it. これは誰のものでもない、俺の人生だ!」

でした(笑) ちょっと恥ずかしいかもしれませんが、効果は抜群です! 自分自身を信じてあげてください。一回きりのやり直しのきかない人生、周りばかり気にして過ごしていたら、きっと後悔します。やりたいことがあるなら、必ずやってみてください。

僕は、17年しか生きていなくて、社会の事などあまりわからないけど、すべてのことが"挑戦する"ことから始まると思っています。 そして、たとえ失敗しても、絶対に後悔することはありません。挑戦したことに、大きな意味があるからです。 トライした自分を褒めてあげてください!



Life is all up to you, so you have a choice to avoid hard challenge during your life span, however, I'd recommend you try difficult or new thing. You will see and learn different sight after the challenge, like I did. I want to tell all of you my gratitude. Thank you so much for your support. Let's enjoy!!! 感謝。

アメリカ公立高校アメリカ公立高校交換留学プログラム帰国報告梅田ピアザ三宅咲良(高2)



【2. 登校初日 ☆気合と笑顔!】

登校初日は、とっても気合を入れて行きました。今まで行った人からも、説明会でも、初日に緊張しすぎて、全然人と話すことができなくて、すごく落ち込んで、泣いて帰ってきた人もいると聞いていたから、自分はそうはならないぞ、絶対頑張るぞって気持ちで行きました。

具体的には、アメリカは日本と違い、クラス分けはありません。 先生たちが自分の教科のクラスを持っていて、子供たちは自分の 選んだ教科のクラスに5分休憩の間に移動します。その移動も 大変だし、いつも同じ子が来る訳ではないのです。だから同じ クラスになった時、となりに座った子や目が合った子に、笑顔で 自分から話しかけようと心がけました。でも、私が

「Hi, hello! I'm Sakura. How are you?」と言うと、相手が「I'm good! Where are you from?」「I'm from Japan!」って話が盛り上がる時もあれば、「Hi, hello! How are you?」「good…」と言いながら目を合わさずに行く子もいます。

こんな時はもちろん傷つきますが、

「あーやっぱりダメやわぁ…もう話しかけないでおこう」なんて、いちいち思わないようにしていました。自分が何も話さなかったら、空気のようになってしまう!自分がここにいるという存在をアピールしよう! そこから始めようと思いました。

【3.スペイン語のクラス】

私はアメリカでスペイン語の授業を選択しました。「え?日本人なのにアメリカでスペイン語の勉強をするの?そんなの大変じゃない?英語でスペイン語を学ぶの?」と、みんなに驚かれるのですが、私はセルラスで多言語の活動をしていたので、そこになんの壁もなくスペイン語を選択し、学ぶことができました。会話が中心の授業は、私の大好きな授業でした。







【1. 留学に行く前 ☆ 挑戦したい! 】

もともと、留学に行きたいと思っていた訳ではありませんでした。でも、高1になった時に、留学のことを聞く機会があり、少し考えるようになりました。すると、アメリカの生活ってどんなだろう? アメリカの高校生ってどんなことをしてるんだろう? といろいろ興味を持つようになりました。

行こうと思った最後の決め手は、理事長から「もし、行くか行かないか迷っているなら、行くという方を選んだ方が良い。なぜなら、その方が少しでも一歩前に進むようになるからだ」と言って頂いた言葉でした。

そこには大変な事があるとは思いましたが、それに自分で立ち向かってチャレンジしてみたいと思えるようになったのです。

【4. 思いを伝える勇気】

つらくて大変なこともありました。学校で、一日あまり誰とも話せなかった日や、ホストファミリーとの壁を感じた日などは、 1人になると自然に涙が出てくることもありました。

学校では、私は4人グループの中に入れてもらって、スクールランチを一緒に食べてました。1人はとても優しくて、いつも私に質問してくれたり、笑顔で話しかけてくれました。そのグループに入れてもらったのも、私が「Can I have a lunch with you?」と聞いたら、「いいよー!」とその子が答えてくれたからです。でも、他の3人は、私のことを好きじゃないのかなと思うことがありました。なぜなら、私が挨拶しても目を合わせなかったり、答えてくれなかったり…私のことが嫌い?一緒にご飯食べたらあかんのかな?とモヤモヤしていました。

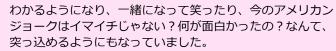
そこである日、自分の気持ちをその子に打ち明けてみました。「他の3人は、私のことを好きじゃないのかなと思うの。目を合わせてくれないし、返事もなかったりするの」その子は「そんなことないと思うよ。だけど、あなたがすごくつらいなら、他の子と食べる?私はあなたのことが好きだし、一緒に食べたいと思うから…でも、言ってくれてありがとう」そう言って、ハグしてくれました。

私は、ずっと胸に詰まっていた思いが一気にあふれて、涙を流してしまいました。それからは、何かつらいことがあっても、それをため込まず、ちゃんと相手に話すようにしました。そうすれば、向こうの気持ちも聞けて、自分の気持ちも伝わるということを

【5. 人と向き合う大切さ】

また、ホストファミリーは大家族で、 みんなで話している時、最初は本当に 内容がわからなくてついて行けず、 正直つらいと感じたこともありました。 でも、時間が経つうちに、話の内容が

学んだからです。



つらいこともありましたが、私はやっぱり人といる時間が一番好きでした。部屋で映画をみたり、携帯さわったりということより、人と一緒に話をする時間が一番好きでした。英語がまだよく理解できない時でも、人の輪に入って、1対1で話すのが好きでした。目も合って、自分も話しやすく、相手の話も聞けて…。私は、そんな時間をとても大切にしていました。

こんなふうに、お互いのことをわかり合い、楽しい時間が 過ごせるようになりました。くりかえしいろいろなつらい事を乗り 越えていけたのは、しっかり人と向き合えたからだと思います。

【6. アメリカの学校での勉強☆ いい成績を取れるよう努力した!】

「アメリカでの授業は全部英語でしょう?」「もちろんそうだよー」「それって理解できるの? 成績取れたりするの? どうやったの?」と、帰国後よく聞かれます。 私は行く前から、決めていたことがありました。それは、言語の壁や違いを言い訳にせず、日本の学校の先生に、「取って来ました!」と、胸を張れるような高い成績を絶対に保つということでした。

結果的には、1つ2つ、Bがありましたが、ほとんどAを取りました。もちろん、簡単なことではなかったです。 初めは授業はほとんどわからない、先生の話を聞くだけで精一杯で、肝心の中身の話は入ってこない。「今から○○について、 話し合って下さい」と言われても、何について話すのかわからない。宿題が出ても、何が宿題なのかもわからない。でもそんな時、 隣の子に「今、先生、何を質問したの?」とか、「宿題どんなことをするの?」とか聞きました。すると、隣の子も、クラスの子たちも みんなとっても優しくて、「今、このことを話し合うんだよ」とか、「宿題はこういうふうにしてきてね」とか教えてくれました。

テストの点が悪い時は、先生に質問しに行きました。「テストの点が良くなかったんです。どうしたらいいですか?どうしたら成績上がりますか?」と。すると先生が「やり直ししたらいいよ。もう1回テスト受けようか?」と相談に乗ってくれました。 私はわからない、わからないで終わらずに、自分から、先生や友達に助けを求めに行き、そしてみんなに助けてもらいながら、楽しく授業を受けて、良い成績も取ることができたと思います。

【7. すべてがセルラスと繋がっている!】

アメリカでの経験は、すべてセルラスと繋がっていたと思います。例えば、「ロールプレイ」「人の目を見て、聞き、話す」、「想像力と創造力」もそうです。 いろんな所でその力が活きたと思います。

例えば「場面で聞く力|

知らない言葉が出てきても、その会話(場面)に何度か出会うと、あ、この事かなと想像できるようになりましたし、先生の話す英語がすごく速くてわからなくても、目をじっと見て聞いていると、なんかわかるような気がしました。





次に「プレゼンの力」

授業で、歴史上の人物を調べてプレゼンをすることになった時、 先生から「さくらは日本人だから、しなくても大丈夫だよ」と 言われましたが、私は「やりたいです。やらせて下さい」と すぐに言いました。セルラスでずっとプレゼンをやってきたので、 自信があるわけではないけれど、やってみたいと思えたのです。 本番はすごく緊張して、失敗したーと思うこともありましたが、 終わった後、先生は「Good job! よくやったよ。とっても よかったよ!」と言ってくれて、生徒たちからも大きな拍手を もらいました。決して調べた内容は深いものではないし、 英語もつたないものでしたが、きっと、私の今までの準備の プロセスや、そこに立つことの勇気をみんなに称えてもらった んだと感じ、すごく嬉しかったです。

皆さんも、人の前で話すことや、 自分の意見を言って自分を表現する ことを、恥ずかしいと恐れないで ほしいと思います。なぜなら、 聞く人はみんなの努力や勇気を 見てくれているからです。

セルラスでしていることは、 すべての人生に繋がっていると 思います。学校だったり、 受験だったり、仕事だったり。

だから私は、これからの人生も挑戦する心を忘れずに、 向き合って、乗り越えていきたいと思っています。

【8. 日本での授業 ☆ 自分次第で変わる! 】

アメリカの授業は、ディスカッション中心で楽しかったけど、 日本では、またあの、先生が黒板に文字を書き続け、ずっと話を 聞くばかりの授業で、つまんないだろうなと思っていました。

でも、私は日本に帰ってから、実は1度も授業中に寝てません!! (っていうと、前は寝てたのかってことですが、まぁ、つまんない時は、うとうとーってことも。) それがなぜ今、こうやって集中して授業を受けられているかというと、私は帰国後最初に、「先生の目を見て、しっかり話を聞こう!!」と思いました。すると、今まで面白くないなぁと思っていた古典や他の科目に興味をもって聞けるようになりました。

「ヘぇー、こんなことがあるんやー」と。

そうやって興味を持つと、なんでそうなったんだろう?といろいろ質問が出てきて、先生に聞くようになり、すると、だんだん授業が楽しくなってきました。50分授業があっという間に過ぎていき、今までとは全く違うものになっていった気がします。自分に与えられた場を、先生の話がつまらないとか、興味がないとか、そんな決め方で諦めるのではなくて、そこに向き合う自分の気持ちと姿勢次第で変われるんだなと思いました。

だから、もし今、授業に興味を 持てなくて、集中出来ない人がいたら、 一度、先生の目をしっかり見て、 思いっきり話を聞いてみてください。 そしたら絶対、

「そうなんだー、楽しいなー」 と思うはず。だから、みんなにもそうしてほしいです。

【9. 最後に…】

渡米前、私は父にとても厳しく叱られたことがありました。 お弁当箱を出さない、食器を戻さない、部屋をきれいに片づけない、 といった姿に、父は細かく、

「そこ、ちゃんとしないとあかん! 今やってないだろ!」 と怒りました。すると私は、

「うるさいなぁ、わかってるよ。それくらいやってくれたら いいやん!」と言い返してました。

しかし、父が厳しかったのは、私がアメリカでも同じ失敗をして落ち込まないように、心配しての優しさだったと気付きました。 おかげで、私はホストの家で、自然とたくさんのお手伝いを していて、ホスト・マムに、

「そんなにしなくていいよ! それ全部があなたの仕事じゃないよ」と言ってもらうほどでした。

だから、厳しくしてくれた父や、支えてくれた母、そして、10カ月間ずっとマンスリーレポートを読み、見守って下さった皆さん、今こうして機関紙を読んで下さる皆さんに、とても感謝しています。本当にありがとうございました。

セルラスが出会った留学生

楊俊昭 (ヨウ シュンショウ)

(台湾・保険会社勤務)





私は楊俊昭と申します。セルラスでは、ショウちゃんと呼んでもらっていました。38歳、台湾に住んでいます。 2003年9月に来日、1年半東京日本語教育センターに通い、2005年4月から2007年3月まで早稲田大学大学院に留学 しました。卒業後帰国して、現在、金融業界で仕事をしています。 2015年に結婚し、2016年に息子が生まれました。

【セルラスとの出会い】

2004年4月にワンデイトリッププログラムに参加し、隅田川公園に行って来ました。

それは僕の初めて日本人との交流でした。そのころは日本人と会話する機会が本当に少なかったです。その後、セルラスのメンバーに誘われて、毎週新宿ピアザに通っていました。セルラスで日本人に触れる機会が増え、文化交流もできまして、教科書よりも勉強になりました。日本語も上手になりました。そして、他国の人や留学生たちとの交流もできて、普通ではあまりない経験でした。セルラスには心から感謝しています。

【一生の思い出に】

私が帰国する前に、セルラスメンバーたちが鎌倉で送別会をしてくれました。たくさんのメンバーが参加して、感動しました。日本に来て三年半の留学生活で一番印象に残っていることです。私はそれを今でも思い出します。そして、セルラスで行われるロールプレイ、各国料理の交流やワンデイトリッププログラムなど、本当に記憶に深く残っています。皆さんと楽しく過ごしました。セルラスのホームページを見ると、2016年までに500人以上の留学生がこのプログラムに参加したそうです。本当に良かったと思います。









【感謝の気持ちでいっぱいです】

留学したとき悩んだり、戸惑ったりした時期もあったけれども、皆さんの助けで、やっと乗り越えられることができました。ですから自分が国へ帰っても、留学生に親切なセルラスを支援したいと思っています。

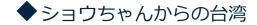
私は願をかけました。留学生に優しいセルラスが続いてほしいから、帰国して働いた初任給を寄付しました。 (そんなに大きい金額ではないです)

日本に留学していたことを考えるとき、いつもセルラスのことを思い出します。

今でも東京に出張するとき時間があれば、セルラスの皆さんに会いたくて、ピアザに参加しています。



セルラスの皆さんが応援してくれたおかげで、 卒業できたと思います。感謝の言葉はいくら述べても 足りないとは思いますが、この場を借りて、感謝の意を 表します。Hope to see you again soon.





中国語クイズ◆



もういちど ひといき♪ 台湾の中国語は繁体字なので、日本人にも馴染みやすいと思います。でも日本の人たちにとって 少し驚きの表記もあるかもしれません。そこで問題です!

①台湾で「汽車」と「機車」は何の乗り物でしょう。

- ②「袋鼠」と「無尾熊」は何の動物でしょう。
- ③「隠形眼鏡」は、どんな物?
- ④「熱狗」は、どんな食べ物?









イスーイひは眠ろゆうゆの 問1第:え答の大トウスいキト



作ってみよう! カルロスの ププサス@エルサルバドル

<<材料>> (8個分)

生地 ・米粉 200g

·水 170g ・サラダ油

• 豚肉 150 g ・玉ねぎ 小1/2 ・トマト 小1/2

・ししとう 2個

クルティード

・キャベツ 中1/4 ・にんじん 中1/2

・紫玉ねぎ 小1/2

塩・酢

・オレガノパウダー

*米粉は上新粉や、マサ

・ハラペーニョ 1個 ・とけるチーズ 適宜

・お好きなサルサソース

(とうもろこしの粉) でもOK!詳しくは↓

● トッピング(クルティード)準備

・ボールに水にさらした紫玉ねぎと、千切りにしたキャベツ・にんじんを入れ、 塩・酢・オレガノパウダーをお好みで適宜混ぜ、冷蔵庫で冷やしておく。

●具を作る

①塩コショウを振った豚肉を、こんがり焼く。冷めたら、薄めに切る。

②ざく切りにした、玉ねぎ、トマト、シシトウ、豚肉をミキサーにかける。

③豚の焼汁が残ったフライパンにミキサーの中身を入れ、水分を飛ばしながら炒める。

④ハラペーニョを薄くスライスし、溶けるチーズと一緒にボールに入れておく。

●生地を作って具を包み焼く

A米粉を水でこねる。

®サラダ油を皿に用意。(包むときに手に塗ります)

©手に油を塗り、米粉を丸め、お団子にあんこを包むように③と④を乗せ丸める。

®中の具が出てこないように、丁寧につぶし広げる。

©油を敷いたフライパンで両面をこんがり焼く。

★クルティードとサルサソースをたっぷり乗せて食べましょう!

* クルティードはたくさん作って作り置きしておくと便利です。ちょっとした 付け合せや、ウインナーなどとの相性もバッチリ。 鷹の爪を一緒に入れておくとお酒のつまみにもなります。

*マサとは、石灰水処理したとうもろこしの穀粒から作られるパン生地の総称です。 日本のスーパーではなかなか目にしませんがネットで手に入ります。 「ホワイトマサ」で検索してください。サイトによって、 $500 \text{ g} \sim 1 \text{kg}$ 、 値段も幅があるので、いろいろみてみるといいですよ。



サマーキャンプ留学生!|-ダー

















カルロスの

エルサルバドル・プチ情報

行ってもらいたいおすすめの場所は、 ①プラヤ・エル・テウンコ「豚ビーチ」 (A)

②スチトト市

③セロ・ベルデ自然公園®④フレサ動物園

⑤エル・ボケロン「サンサルバドル火山」

⑥エル・ロサリオ教会②とサンサルバドル・カテドラル

○悪魔門「ラ・プエルタ・デル・ディアプロ」





コスタリカ エルサルバドルの人たちは みんな口笛が上手なんだ! 女性も!!口笛を使えばバスにと まってもらえたり、遠くにいる

ププサスの具は、 上のレシピのほかにも、

①チーズとエビ ②チーズとフリホーレス

③チーズとハラペー

などもおすすめです!

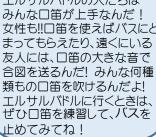


ぜひ食べてもらいたい料理は、 ①マンゴ・ザポテ®・ホコテス®・アノナ などの果物

②代表的な昼ご飯のいろいろなスープ チキン・マリスカダ©・ソパデパタ®な

エンパナダスやパステリトス

④コーヒーとチョコラテ ⑤リグアスコンケソ(I





『多言語広場フェスティバル2017』へ行こう!



2017年を締めくくるセルラスビッグイベントが 「多言語広場フェスティバル2017」です。 この1年間、様々な力を培ってきた青少年たちが、 力を合わせて企画から運営まで取り組んでいきます。

今年は特に「多言語」そのものにしっかり焦点を合わせて 活動してきました。その集大成として、全セルラスメンバーに 以下のエントリーを呼びかけていく予定です。

- ★多言語プレゼンテーション
- ★多言語自己紹介
- ★多言語ワンマンロールプレイ

詳細は、後日お知らせします。日程は以下の通りです。 《**関西**》2017年12月17日(日)/ **《関東**》2017年12月10日(日)



多言語活動フォーラム2017開催!

日時:10/7(土)~10/9(月•祝)

場所:愛知県犬山市にて

報告をおたのしみに~♪



= 編集後記 =

セルラスの熱い夏が終わり、今やあちこちのピアザで発見!感動!の熱い体験報告が、続いています。その沢山の体験談を手にした広報チームでは、「あれもこれも載せたい!!」「削れない!!」という嬉しい悲鳴が続き、その結果、今回は今までの倍の16ページ特大号となりました(汗)

異国の地でのホームステイ交流、留学、いろいろな国の人たちを自宅へ受け入れること、サマーキャンプで知らない人ばかりのグループに入ること等々、全て大きな「違い」に遭遇できる大チャンスでした。時には逃げたくなるような「違い」に対して、心の扉を全開にして、果敢に自分から「人に向き合う」ことを選択してきたメンバーたち、特に青少年たちに、心からの拍手を送りたい気持ちでいっぱいです。

読んでくださった皆さんからも、拍手をいただけることを願って、また次号に向けて気持ちを新たに、進んでいきたいと思います。

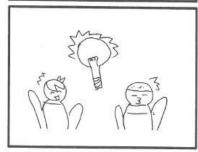
ご意見・ご感想がございましたら、ぜひセルラス広報チームまでお寄せください。

広報プロジェクトチーム一同

サマーキャンプにて 梅生ピアサ 和田 文太郎









寄稿文&4コマまんが随時募集中!

(詳細は、本部事務局広報プロジェクトチームまで)

セルラスでは、全国各地で様々なイベントを開催中です。 詳しくはセルラス ホームページをご覧ください! メルマガも随時配信中!



セルラス

発行元

ピアザ セルラス

NPO法人 多言語広場CELULAS

本部事務局

〒151-0053

東京都渋谷区代々木2-23-1 ニューステイト

大学・103-5333-8202 (代表) FAX:03-5333-8203

関西事務所

₹553-0007

大阪府大阪市福島区大開1-10-10 TEL&FAX: 06-7493-7931(代表)

URL: http://www.celulas.or.jp
e-mail: info@celulas.or.jp